

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H00804

研究課題名(和文) ボルネオ中央部の生態系保全に向けた制度設計：ローカルとグローバルを繋ぐ

研究課題名(英文) Institutional design for biodiversity conservation in Indonesian side of the Heart of Borneo: linking local reality with global issues

研究代表者

井上 真 (Inoue, Makoto)

早稲田大学・人間科学学術院・教授

研究者番号：10232555

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,500,000円

研究成果の概要(和文)：国立公園地域では、自給経済活動(焼畑・水田)を圧迫せずに安定した現金収入をもたらす市場経済活動の模索が必要である。焼畑農業地域では、慣習法組織による適切なルール設定とその効果的強制的仕組み作りによる現金収入のための活動(金採取)および焼畑農業の継続が望ましい。インドネシアでは保護地域の管理に関して、目的達成のための「手段」としての参加が国家政策で保証され、周辺部の自然資源の利用が認められることで人々の自律的な発展を目指す「目的」としての参加も大方実現している。自給用の農業(特に焼畑農業)の維持を前提として、地域特性に応じた現金収入源の確保・創出を参加の原則に則って進めることが重要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドネシア林業大臣、マレーシア自然資源・環境大臣、ブルネイ産業・資源大臣により署名された3カ国宣言(2007.2.12)の対象であるHeart of Borneoの総面積に占めるインドネシア領の割合は72%である。本研究の対象地である北および東カリマンタン州は、総面積に占める割合が合わせて38%となり極めて重要な地域である。したがって、地域の特性に応じた生計のあり方を提示できたことは、ボルネオ中央部を国家戦略地域として明確に位置づけたインドネシアの森林保全政策のみならず、世界の重要生態系保全に対する学術的かつ政策的(実践的)な貢献の意義を有する。

研究成果の概要(英文)：In National Park area, it is necessary to search for stable cash income sources without putting pressure on self-sufficient economic activities (swidden agriculture, paddy agriculture). In other area, it is desirable to continue swidden agriculture and economic activities for cash income (ex. gold panning) by establishing appropriate rules by customary institution and creating effective enforcement mechanisms. Regarding the management of protected areas in Indonesia, participation is guaranteed by national policy as a 'means' to achieve the goal, and the participation as a 'purpose' is also largely realized because the use of natural resources in the surrounding area is permitted to facilitate the peoples' autonomous development. On the premise of maintaining self-sufficient agriculture (especially swidden agriculture), it is important to promote the securing and creation of cash income sources according to local attributes in accordance with the principle of participation.

研究分野：環境社会学、森林ガバナンス論、東南アジア地域研究

キーワード：Heart of Borneo 生態系保全 先住民の生計 国立公園 焼畑農業 参加

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アジアで最大の熱帯雨林が分布するボルネオ島は、1950年代には島のほぼ全域が森林に覆われていたものの、2006年には森林被覆率が57%にまで減少した。その原因は、違法伐採を含む木材生産、アブラヤシ農園開発、石炭採掘、火入れ開拓など、経済成長の原動力となった開発行為である。その結果、現存する森林のほとんどは、開発の影響が少なかったボルネオ中央部 (Heart of Borneo: HoB) に分布している。

このHoBは生物的に高度な豊かさと固有の価値を有することが推定されている (Raes et al, 2009)。一方で先住民のかつての主な生業である焼畑農業は、コメを収穫したら畑を移動させ、一定の休閑期の後に再び元の場所に戻ってくる循環型焼畑農業であった。しかし井上 (2014) などが指摘するように、近年は除草剤の導入や永年生作物 (ココア、ゴムなど) によって人々の土地利用は急速に変化しつつあり、かつ地域による偏差が大きい。また、インドネシア政府は気候変動政策に対して積極的であるが、地域住民へのインセンティブの設け方についてはパイロットプロジェクトによって検証している状態である。さらに、2000年以降のアブラヤシ農園開発や石炭開発は数万 ha 規模で森林をすべて切り倒し森林生態系が消失するばかりか、森林火災の原因にもなりやすい。こうして森林に貯蓄されていた炭素は放出され、一方で地域住民の生計は大転換を余儀なくされる。

今まさに、生態系保全、気候変動対策、住民の生計維持・向上という3つの重要課題を同時に達成するために実現可能な制度設計が求められているのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、生物多様性保全上重要なボルネオ中央部の地域特性に応じた持続可能な発展と生物多様性保全を実現し、気候変動緩和に資するためにどんな生計のあり方が好ましいのかを提示することである。

3. 研究の方法

まずはフィールドワークを重視する地域研究・環境社会学や文化人類学の方法に基づいて、人々の生計実態及び土地・自然資源利用に関する経済的・社会的・法的・政治的・文化的・歴史的な観点から地域特性に即した生計のあり方を検討する。そのため、対照的な二つの地域を研究対象地として選定した。一つは、国立公園地域で、もう一つは焼畑農業を主な生業とする遠隔地域である。双方ともBahauやKenyahといった先住民が長い間生活してきた地域である。

次に、市民参加・住民参加に関する国際法の枠組みの観点から国家レベルの政策を検討し、地域の特性を活かすための実現可能な生計のあり方を提示する。

4. 研究成果

(1) 地域特性に即した生計のあり方

国立公園地域

ロング・アランゴ村での調査から次のことが明らかになった。

- 1) 自然資源に立脚した市場経済活動は少なく、多くの農家世帯は安定した現金収入源を有していない。
- 2) 陸稲の自給率100%が達成されている一方で、人口が微増するなか、焼畑用地と水田用地の外延的拡大が困難な状況にあることを考えると、持続可能性に将来的な不

安が存在すると考えられる。

- 3) 外部者の自然資源利用を排除する慣習法に国立公園の規則が正当性を付与する補強効果が存在する。

以上より、持続可能な生計のあり方として、自給経済（焼畑・水田）を圧迫せずに安定した現金収入をもたらせる市場経済活動の模索が必要であると考えられた。

焼畑農業を主な生業とする遠隔地域

マハック・バル村での調査から次のことが明らかになった。

- 1) 低所得世帯の多くが高圧放水ポンプ（MS）を用いた金採取に従事し、最も重要な現金収入源であると認識していた。
- 2) 近年、MS 保有者数は増えており、今後金採取の規模は拡大していくとみられる。
- 3) 衛星画像分析の結果、今のところ金採取による森林被覆の減少は極めて限定的である。
- 4) 一方、金採取による川の汚染やそれによる川魚の漁獲量の低下など、金採取が活発化することの負の影響を多くの村人が懸念していた。
- 5) そうした問題を回避するため、慣習法組織は金採取地を特定地域に制限するルールを打ち出したが守られていない。
- 6) 調査対象者の多くは、焼畑耕作を維持しながら現金が得られる生計を望んでおり、その一つとして、慣習法組織が決めたルールに基づく秩序ある金採取を挙げる者が多かった。

以上を踏まえると、慣習法組織による適切なルール設定とその効果的強制を図る仕組みを作り焼畑農業と現金収入源としての金採取が継続されることが望ましいと考えられる。

(2) 国家政策

生態系を保全し、気候変動の緩和・適応に貢献し、地元住民の生活を改善するための生計オプションを検討する前提として、人々の「参加」が法制度で保証されており、かつ現場の実態でもそれが実現していることが不可欠である。そのため、「参加」には生態系保全という目的を達成するための「手段」としての参加と、人々の自立的な発展を目指す「目的」としての参加の違いに着目して「参加」の実態と法制度の現状を評価することが必要である。

インドネシアでは保護地域の管理に関しては「手段」としての参加が保証され、周辺部の自然資源の利用が認められることで「目的」としての参加もおおかた実現している。そのため、人々が現場の生計実態に合わせた自主的な資源利用の仕組みを構築しつつ現金収入源多様化の模索をおこない、それを NGO 等と協力しつつ政府に働きかけるのが効果的となる。

(3) まとめ

地域特性に応じた現金収入源の確保・創出を参加の原則に則って進めることが重要であり、かつその前提として自給用の農業（特に焼畑農業）の維持は欠かせないものである。

< 引用文献 >

- Raes, N., et al, 2009. Botanical richness and endemism patterns of Borneo derived from species distribution models, *Ecography*, 32 (1):180-192.
- 井上真, 2014. ボルネオ先住民の行動原理. 日本森林学会 (監修) / 井出雄二・大河内勇・井上真 (編) 『教養としての森林学』文永堂出版, p135-136.)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計23件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 大久保規子	4. 巻 12号
2. 論文標題 総論：参加原則の国際的展開と日本の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 環境法政策学会誌	6. 最初と最後の頁 36-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大久保規子	4. 巻 30号
2. 論文標題 環境影響評価法制の整備	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 行政法研究	6. 最初と最後の頁 239-256
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺内大左	4. 巻 4月号
2. 論文標題 石炭が蝕む熱帯林と大気と人々の生活	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グリーン・パワー	6. 最初と最後の頁 26 - 29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河合真之	4. 巻 5月号
2. 論文標題 「持続可能な」パーム油生産実現の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グリーン・パワー	6. 最初と最後の頁 26 - 29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 寺内大左	4. 巻 23号
2. 論文標題 序 特集 インドネシア外島における森・土地をめぐるポリティックス 企業, 先住民, 移住者の動きから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 白山人類学	6. 最初と最後の頁 5-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺内大左	4. 巻 23号
2. 論文標題 東カリマンタンの森林コモنزの軌跡 木材伐採・石炭開発に対する焼畑民の対応から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 白山人類学	6. 最初と最後の頁 45-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Christine Wulandari and Makoto Inoue	4. 巻 17 (3)
2. 論文標題 The Importance of Social Learning for the Development of Community Based Forest Management in Indonesia: The Case of Community Forestry	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Small-scale Forestry	6. 最初と最後の頁 361-376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11842-018-9392-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Indika Palihakkara and Makoto Inoue	4. 巻 212
2. 論文標題 Fuel wood trees in marginal small holder tea plantations in Sri Lanka: Stakeholder 's perception	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Procedia Engineering	6. 最初と最後の頁 1211-1216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.proeng.2018.01.156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また, その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大久保規子, 柳憲一郎, 磯野弥生, 高村ゆかり, 権藤倅一郎	4. 巻 29
2. 論文標題 アジアの環境アセスメント制度と訴訟 参加指標による7カ国比較	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 行政法研究(信山社)	6. 最初と最後の頁 85-105
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大久保規子	4. 巻 29
2. 論文標題 沖縄の環境と人権	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際人権(国際人権法学会2018年報)	6. 最初と最後の頁 45-49
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriko Okubo	4. 巻 9
2. 論文標題 Judicial Control Over National Security Projects: Critical Analysis of the Okinawa Dugong Cases from the Viewpoint of Principle 10	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IUCN Academy of Environmental Law eJournal	6. 最初と最後の頁 55-78
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺内大左	4. 巻 4月号
2. 論文標題 石炭が蝕む熱帯林と大気と人々の生活	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 グリーン・パワー(森林文化協会)	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naoko Takata and Makoto Inoue	4. 巻 26 (3)
2. 論文標題 How do swiddeners organize small groups and react to exogenous development? A case study of the Bahau in East Kalimantan, Indonesia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 TROPICS	6. 最初と最後の頁 83-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3759/tropics.MS16-19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺内大左	4. 巻 55
2. 論文標題 焼畑民によるアブラヤシ農園開発の受容 - インドネシア東カリマンタン州・ベシ村を事例として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 320-345
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.55.2_320	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Terauchi	4. 巻 6 (2)
2. 論文標題 Review of The Oil Palm Complex: Smallholders, Agribusiness and the State in Indonesia and Malaysia edited by Rob Cramb and John F. McCarthy	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 393-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Alfian Helmi, Masatoshi Sasaoka	4. 巻 59
2. 論文標題 Dealing with socioeconomic and climate-related uncertainty in small-scale salt producers in rural Sampang, Indonesia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Rural Studies	6. 最初と最後の頁 88-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Isma Rosyida, , Wahidullah Khan, Masatoshi Sasaoka	4. 巻 5 (1)
2. 論文標題 Marginalization of a coastal resource-dependent community: A study on Tin Mining in Indonesia	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Extractive Industries and Society.	6. 最初と最後の頁 165-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.exis.2017.11.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 河合真之	4. 巻 55 (2)
2. 論文標題 インドネシア共和国におけるPIR (Perusahaan Inti Rakyat) 方式の変遷	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 256-291
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.55.2_256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Inoue Makoto, Terauchi Daisuke, Fujii Koji, Tsunoda Kazuki, Okubo Noriko, Takamura Yukari, Hidayat Herman, Imang Ndan, Nanang Martinus, Voo Peter, Nath Tapan Kumar	4. 巻 41
2. 論文標題 Understanding Local Peoples' Participation as "Means" and "Ends" in Protected Areas Management: A Qualitative Study in the Heart of Borneo	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Sustainable Forestry	6. 最初と最後の頁 386-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/10549811.2021.1935278	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 井上真	4. 巻 52 (3)
2. 論文標題 自然資源に対するコミュニティ・先住民の権利：コモンズ論で考える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 環境と公害 (岩波書店)	6. 最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺内大左	4. 巻 27
2. 論文標題 グローバル・コモディティの環境社会学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境社会学研究	6. 最初と最後の頁 85-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺内 大左	4. 巻 58
2. 論文標題 東カリマンタンの石炭開発フロンティアにおける焼畑社会の再編	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 33-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/tak.58.1_33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大久保規子	4. 巻 49(4)
2. 論文標題 持続可能な発展に向けた法的課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 環境情報科学	6. 最初と最後の頁 8-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 角田一樹・藤井紘司・寺内大左・Ndan Imang・Martinus Nanang・Peter Voo・Tapan Kumar Nath・大久保規子・井上真
2. 発表標題 国立公園の協働管理における住民参画の現状と課題 ポルネオ島におけるインドネシアとマレーシアの国立公園を事例として
3. 学会等名 第29回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makoto Inoue, Noriko Okubo, and Yukari Takamura
2. 発表標題 Assessing multi-level policies for conservation of the Heart of Borneo as 'dual' commons.
3. 学会等名 XVII Biennial IASC-Conference (国際コモンズ学会)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masatoshi Sasaoka and Yosuke Sano
2. 発表標題 Factors affecting local land use decision in a gold-rich community, the Heart of Borneo.
3. 学会等名 XVII Biennial IASC-Conference (国際コモンズ学会)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Daisuke Terauchi
2. 発表標題 Challenges in the collaborative management of national parks in the Heart of Borneo: A case study of Kayan Mentarang National Park
3. 学会等名 XVII Biennial IASC-Conference (国際コモンズ学会)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野洋輔
2. 発表標題 ボルネオ全土へ展開する南カリマンタンの専業沈香採集者
3. 学会等名 第7回香樹研究会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大久保規子
2. 発表標題 SDGsの求めるガバナンス 欧州の事例から
3. 学会等名 日本弁護士連合会主催・公益財団法人日弁連法務研究財団共催セミナー「SDGsと自治体の公共事業」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上真・藤井紘司・角田一樹・寺内大左・大久保規子
2. 発表標題 ボルネオ島中央部生態系保全へのSDG等国际枠組みの活用 参加原則に関するインドネシアおよびマレーシアの比較検討
3. 学会等名 林業経済学会 2018年秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Makoto Inoue
2. 発表標題 Principles for Collaborative Governance -- Based on experiences of Forest Management in Asian Countries
3. 学会等名 19th International Sociological Association (ISA) 's World Congress of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺内大左
2. 発表標題 小農RSP0認証制度の背後にあるリスク
3. 学会等名 日本熱帯生態学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 寺内大左
2. 発表標題 小規模アブラヤシ農家を対象としたRSPO認証制度の検討ーアマナ農民協会を事例に
3. 学会等名 日本熱帯生態学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河合真之
2. 発表標題 東カリマンタン州マハカム・ウルー県における開発の進展とREDD+主流化の可能性
3. 学会等名 林業経済学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Makoto Inoue
2. 発表標題 Significance of participation in protected area governance: Implications from case studies in the Heart of Borneo
3. 学会等名 Forest 2021: Symposium on Multi-Stakeholders' Engagement in Forest/Protected Area Governance for Conservation and Livelihoods (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上真
2. 発表標題 保護地域「協治」の理念的・実態的な意義：ボルネオ中央部の事例比較より
3. 学会等名 第132回日本森林学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上真
2. 発表標題 在来・地域知のサステナビリティ
3. 学会等名 現代文化人類学会 第24回シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺内大左
2. 発表標題 地域研究から問う市場インセンティブを利用した熱帯林保全事業
3. 学会等名 日本熱帯生態学会年次大会公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寺内大左
2. 発表標題 複雑化する国際的な受益・受苦関係 - 石炭を通じた日本とインドネシアの関係から
3. 学会等名 環境社会学会大会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寺内大左
2. 発表標題 東カリマンタンの焼畑民はアブラヤシ農園開発をどう見たか
3. 学会等名 インドネシア研究懇話会シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 寺内大左
2. 発表標題 自己変容型フィールド調査の試み 時間と専門知識の制約の中で学生の自己変容をいかに導くか
3. 学会等名 日本文化人類学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masatoshi Sasaoka
2. 発表標題 Why did they become “illegal squatters”? Insights into social responsibility for the life reconstruction of evicted people
3. 学会等名 International Symposium on Environmental Sociology in East Asia (ISESEA) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大久保規子
2. 発表標題 環境に関する権利の拡大と参加原則
3. 学会等名 環境法政策学会第26回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大久保規子
2. 発表標題 主要国における参加原則
3. 学会等名 環境科学会シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大久保規子
2. 発表標題 越境の実践がつむぐガバナンス アジアの持続可能性課題の協働解決に向けて(2)
3. 学会等名 国際開発学会第31回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野洋輔
2. 発表標題 ボルネオ島の香木資源をめぐる外来採集者の展開と原産地社会の対応
3. 学会等名 環境社会学会研究例会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kei Sawai, Masatoshi Sasaoka
2. 発表標題 Meanings and Importance of Pangolin and Porcupine Hunting for Locals in the Heart of Borneo: Insights for future conservation (poster presentation)
3. 学会等名 The International Symposium on Society and Resource Management 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤井啓
2. 発表標題 カリマンタン島におけるセンザンコウ獺の意味と重要性 - 社会的受容性の高い保全に向けて
3. 学会等名 環境社会学会例会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤井啓
2. 発表標題 社会的受容性の高い希少種センザンコウの保全策：インドネシア北カリマンタン州S村の事例から
3. 学会等名 環境社会学会第66回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masayuki Kawai
2. 発表標題 Considering the possibility of introducing degrowth concept under the current SDGs policies in the Heart of Borneo, East Kalimantan, Indonesia
3. 学会等名 KYOTO 2020: IASC-RIHN ONLINE WORKSHOP ON COMMONS, POST-DEVELOPMENT AND DEGROWTH IN ASIA (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計31件

1. 著者名 大久保規子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 288
3. 書名 「権利に基づくパートナーシップ」佐藤真久＝関正雄＝川北秀人編『SDGs時代のパートナーシップ：成熟したシェア社会における力を持ち寄る協働へ』	

1. 著者名 Masayuki Kawai	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Institute for Global Environmental Strategies (IGES)	5. 総ページ数 262
3. 書名 CHAPTER 6 From natural forest to oil palm estates: Landscape transformations in East Kalimantan, Indonesia and options for REDD+ in Henry Scheyvens and Binaya Raj Shivakoti (Eds) Asia-Pacific landscape transformations Solutions for sustainability	

1. 著者名 Makoto Inoue, Kazuhiro Harada, Yasuhiro Yokota, and Mohammed Abrar Juhar (eds)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 University of Tokyo Press	5. 総ページ数 288
3. 書名 Participatory Forest Management in a New Age: Integration of Climate Change Policy and Rural Development Policy	

1. 著者名 森林環境研究会（編） / 井上真・桑山朗人（責任編集）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 森林文化協会	5. 総ページ数 76
3. 書名 森林環境2019：森林環境 多事争論	

1. 著者名 K.N.Ninan and Makoto Inoue (Eds)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Edward Elgar Publishing	5. 総ページ数 306
3. 書名 Building a Climate Resilient Economy and Society: Challenges and Opportunities	

1. 著者名 Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R. (eds)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 450
3. 書名 Climate Change, Disaster Risks, and Human Security: Asian Experience and Perspectives	

1. 著者名 Makoto Inoue, Kazuhiro Harada, Yasuhiro Yokota, and Abrar Juhar Mohammed (Eds)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Tokyo Press.	5. 総ページ数 309
3. 書名 Participatory Forest Management in a New Age: Integration of Climate Change Policy and Rural Development Policy.	

1. 著者名 寺内 大左	4. 発行年 2023年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 512
3. 書名 開発の森を生きる インドネシア・カリマンタン 焼畑民の民族誌	

1. 著者名 井上真	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 361
3. 書名 『持続可能な開発における<文化>の居場所：「誰一人取り残さない」開発への応答』（関根久雄編，「熱帯林保護地域管理への住民参加：ボルネオ島中央部の事例より」pp.165-189を分担執筆）	

1. 著者名 Raza Ullah, Shubhechcha Sharma, Makoto Inoue, Sobia Asghar, Ganesh Shivakoti (eds)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Elsevier	5. 総ページ数 443
3. 書名 Natural Resource Governance in Asia	

1. 著者名 Makoto Inoue	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Elsevier	5. 総ページ数 443
3. 書名 『Natural Resource Governance in Asia』(Raza Ullah, Shubhechchha Sharma, Makoto Inoue, Sobia Asghar, Ganesh Shivakoti eds, 「Theoretical implication of current social problems in Japan to the studies of the commons」pp.365-371を分担執筆)	

1. 著者名 Raza Ullah, Makoto Inoue, Ganesh P. Shivakoti, Shubhechchha Sharma	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Elsevier	5. 総ページ数 443
3. 書名 『Natural Resource Governance in Asia』(Raza Ullah, Shubhechchha Sharma, Makoto Inoue, Sobia Asghar, Ganesh Shivakoti eds, 「Managing natural resources in Asia: Challenges and approaches」pp.1-12を分担執筆)	

1. 著者名 Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R., Pangilinan M.J.Q., Catudio M.L.R.O.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 450
3. 書名 『Climate Change, Disaster Risks, and Human Security: Asian Experience and Perspectives.』(Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R. (eds), 「Climate Change and Disaster Risks in an Unsecured World」pp.1-19 を分担執筆)	

1. 著者名 Shaw R., Pulhin J.M., Inoue M.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 450
3. 書名 『Climate Change, Disaster Risks, and Human Security: Asian Experience and Perspectives.』(Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R. (eds), 「Disaster Risk Reduction, Climate Change Adaptation, and Human Security: A Historical Perspective Under the Hyogo Framework and Beyond」pp.21-36を分担執筆)	

1. 著者名 Peras R.J.J., Pulhin J.M., Gevana D.T., Inoue M.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 450
3. 書名 『Climate Change, Disaster Risks, and Human Security: Asian Experience and Perspectives.』 (Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R. (eds), 「Natural Resource Base as a Foundation of Human Security」pp.113-136を分担執筆)	

1. 著者名 Ramirez M.A.M., Stevenson L.A., Pulhin J.M., Inoue M.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 450
3. 書名 『Climate Change, Disaster Risks, and Human Security: Asian Experience and Perspectives.』 (Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R. (eds), 「National Policies and Programs on Climate Change and Disaster Risks that Address Human Security」pp.345-372を分担執筆)	

1. 著者名 Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R., Catudio M.L.R.O., Pangilinan M.J.Q.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 450
3. 書名 『Climate Change, Disaster Risks, and Human Security: Asian Experience and Perspectives.』 (Pulhin J.M., Inoue M., Shaw R. (eds), 「Pathways Toward a Human Secured Asia」pp.419-445を分担執筆)	

1. 著者名 Abrar .Juhar Mohammed, Makoto Inoue, Tapan Kumar Nath, Mohammed Jashimuddin, Mangala De Zoysa, Hari Kaskoyo, Juan .M. Pulhin, Rose Jane J. Peras, Ganesh P. Shivakoti, Ndan Imang, and Mustofa Agung Sardjono	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Tokyo Press	5. 総ページ数 309
3. 書名 『Participatory Forest Management in a New Age: Integration of Climate Change Policy and Rural Development Policy.』 (Makoto Inoue, Kazuhiro Harada, Yasuhiro Yokota, and Abrar Juhar Mohammed (Eds), 「Participatory forest management policies in South and Southeast Asia」pp.21-54を分担執筆)	

1. 著者名 Abrar Juhar Mohammed, Makoto Inoue, Tapan Kumar Nath, Mohammed Jashimuddin, Mangala De Zoysa, Hari Kaskoyo, Juan M. Pulhin, Rose Jane .J. Peras, and Ganesh .P. Shivakoti	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Tokyo Press	5. 総ページ数 309
3. 書名 『Participatory Forest Management in a New Age: Integration of Climate Change Policy and Rural Development Policy.』(Makoto Inoue, Kazuhiro Harada, Yasuhiro Yokota, and Abrar Juhar Mohammed (Eds), 「Case studies: Overview」pp.55-66 を分担執筆)	

1. 著者名 Abrar Juhar Mohammed, Makoto Inoue, Tapan Kumar Nath, Mohammed Jashimuddin, and Mangala De Zoysa	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Tokyo Press	5. 総ページ数 309
3. 書名 『Participatory Forest Management in a New Age: Integration of Climate Change Policy and Rural Development Policy.』(Makoto Inoue, Kazuhiro Harada, Yasuhiro Yokota, and Abrar Juhar Mohammed (Eds), 「Case studies on participatory forest management for climate change and rural development in South Asia」pp.67-100 を分担執筆)	

1. 著者名 Abrar Juhar Mohammed, Makoto Inoue, Hari Kaskoyo, Juan M. Pulhin, Rose Jane J. Peras, and Ganesh P. Shivakoti	4. 発行年 2021年
2. 出版社 University of Tokyo Press	5. 総ページ数 309
3. 書名 『Participatory Forest Management in a New Age: Integration of Climate Change Policy and Rural Development Policy.』(Makoto Inoue, Kazuhiro Harada, Yasuhiro Yokota, and Abrar Juhar Mohammed (Eds), 「Case studies on participatory forest management for climate change and rural development in Southeast Asia」pp.101-132を分担執筆)	

1. 著者名 井上真	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 『環境社会学事典』(環境社会学会編、「協治論」pp.198-199を分担執筆)	

1. 著者名 井上真	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 718
3. 書名 『環境社会学事典』（環境社会学会編、「ローカルとグローバルをつなぐ戦略」pp.402-403を分担執筆）	

1. 著者名 寺内大左	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 251
3. 書名 『誰のための熱帯林保全か 現場から考えるこれからの「熱帯林ガバナンス」』（笹岡正俊・藤原敬大編、「パーム油認証ラベルの裏側 文脈なき『正しさ』が現場にもたらす悪い化学反応」pp.102-127 を分担執筆）	

1. 著者名 寺内大左	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 188
3. 書名 『人類学者たちのフィールド教育 自己変容に向けた学びのプロセス』（箕曲在弘・二文字屋脩・小西公大編、「自己変容型フィールド調査の試み 調査期間と専門性の制約を超えて」pp.115-135を分担執筆）	

1. 著者名 寺内大左	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 302
3. 書名 『アブラヤシ農園問題の研究II【ローカル編】- 農園開発と地域社会の構造変化を追う』（林田秀樹編、「焼畑民によるアブラヤシ農園開発の多様な意義づけ」pp.221-242を分担執筆）	

1. 著者名 寺内大左	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 302
3. 書名 『アブラヤシ農園問題の研究II【ローカル編】 - 農園開発と地域社会の構造変化を追う』（林田秀樹編，「小規模農家を対象としたRSP0認証の課題と可能性」pp.243-266を分担執筆）	

1. 著者名 笹岡正俊・藤原敬大（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 280
3. 書名 誰のための熱帯林保全か 現場から考えるこれからの「熱帯林ガバナンス」	

1. 著者名 笹岡正俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 280
3. 書名 『誰のための熱帯林保全か 現場から考えるこれからの「熱帯林ガバナンス」』（笹岡正俊・藤原敬大編，「現場から考える「熱帯林ガバナンス」のあり方：周縁化された「草の根のアクター」の視点から」pp.12-30を分担執筆）	

1. 著者名 笹岡正俊	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新泉社	5. 総ページ数 280
3. 書名 『誰のための熱帯林保全か 現場から考えるこれからの「熱帯林ガバナンス」』（笹岡正俊・藤原敬大編，「人びとはなぜ「不法占拠者」になったのか：強制排除された人びとの生活再建に対する社会的責任」pp.196-219を分担執筆）	

1. 著者名 大久保規子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 254
3. 書名 『宮本経済学の再評価と継承』（碓山洋・武田公子・佐無田光・土井妙子編，「環境権・参加原則の国際的発展と日本の課題」pp.109-123を分担執筆）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊達 規子 (大久保規子) (Date Noriko) (00261826)	大阪大学・法学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	平塚 基志 (Hiratsuka Motoshi) (00649585)	早稲田大学・人間科学学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	高村 ゆかり (Takamura Yukari) (70303518)	東京大学・未来ビジョン研究センター・教授 (12601)	
研究分担者	笹岡 正俊 (Sasaoka Masatoshi) (80470110)	北海道大学・文学研究院・准教授 (10101)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	河合 真之 (Kawai Masayuki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤原 江美子 (Fujiwara Emiko)		
研究協力者	澤井 啓 (Sawai Kei)		
研究協力者	佐野 洋輔 (Sano Yosuke)		
研究協力者	角田 一樹 (Tsunoda Kazuki)		
研究協力者	下川 知恵 (Shimokawa Chie)		
連携研究者	寺内 大左 (Terauchi Daisuke) (10728140)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
連携研究者	藤井 紘司 (Fujii Koji) (80879867)	千葉商科大学・人間社会学部・准教授 (32504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インドネシア	Research Center for Society and Culture	University of Mulawarman		
マレーシア	Universiti Malaysia Sabah	University of Nottingham Malaysia		